

0) 国際関係副専攻の説明及びその中での私の専門

- ・ 学科横断的な専攻 (履修証明書)
- ・ 国際関係論とは: グローバル化した国際社会の国際関係や様々な問題を扱います。
- ・ 国際政治経済論、国際経済学 → 貧困問題

1) 世界の貧困問題概説

- ・ アマルティア・セン → 貧困とは、単に所得の低い状態ではなく、(選択の)自由が欠如している状態。もちろん、低所得は、(選択の)自由を奪う大きな要因の一つ。
- ・ 絶対的貧困 → 世界人口 60 億のうち、半数に近い 28 億人が 1 日 2 ドル以下、6 分の 1 にあたる 11 億人が 1 日 1 ドル以下の生活。その 40% が南アジア、30% がサハラ以南アフリカに住んでいる。
- ・ 世界の経済格差 1997 年の GDP では、富裕 1/5 が 86%。貧困 1/5 が 1%。
- ・ 乳幼児死亡率、平均寿命。

2) 貧困の原因: 貧困は自然発生ではない。

植民地時代の歴史 (歴史的な原因)

市場至上主義 (現在の国際経済構造的な原因 (理念的問題))

新自由主義的グローバリゼーション

先進国のエゴ (現在の国際経済構造的な原因 (現実的問題))

補助金、貿易障壁、資本収入 (累積債務)、知的所有権収入、WTO . . .

3) 開発援助は貧困問題を解決するか。

→ 貧富の格差の縮小には役に立っていないし、貧困問題は実際そんなに改善されていない。

→ Why?

国際社会は本当に解決したいのか?

開発援助において、先進国側の視点でしか考えていないのではないか (「上からの視点」、「かわいそう。何かしてあげなきゃ」、「自分たちのような社会が望ましい」、「自分たちの社会を尺度として彼らは遅れている」と考える 当然先進国の優位性がより大きくなる。)

4) 視点を変える必要性 (貧困者の視点から考える)

例) スラムは問題なのか解決なのか。

→ そうすることによって (彼らに可能性と力と光があると信じる)。

どんな障壁があるのかがわかるし、

それを乗り越える試みが見えてくる。

(そこに先進国自身も学ぶべき光が存在する。)

→**貧困者自身の歩みの発展(下からの見方:People s Process の発展)という見方**

<http://pweb.sophia.ac.jp/~m-shimok/poverty/proceedings.pdf>

→**貧困者自身の自立的発展の障壁:**

土地、場所へのアクセス (Land, Place)

クレジットへのアクセス (Credit)

マーケットへのアクセス (Market)

→**アジアでの貧困者自身による上記3つの障害を克服する試み: People's Process**

< 共通に成果を挙げている取組み >

コミュニティー・オーガニゼーション

貯蓄グループ、信用貯蓄組合、マイクロクレジット

共同(協同組合的)でのマーケットへのアクセス

< 特徴: 彼らの試みの中にある光 >

共同性: コミュニティーを基盤とした(Community-based な)取組みであること。

主体的で創造的(Creative)な試みであること。

水平交流(Horizontal Exchange: 住民どうしの経験交流)とネットワーク。

最後の水平交流については、一言だけ説明しておく。私たち(日本人)は、一般に途上国の貧困者に対して、何かを教えたり、やらせたり、プロジェクトを持っていくと言ったような関わりだけを考へがちである。しかし、実はこれでは、変化はその地域だけにとどまり、自発的な広がりをもたらさない傾向にある。それに対して、水平交流では、外部者(海外の援助団体や企業、国内行政等)が何かを教えたり、やらせたり、プロジェクトを持っていくのではなく、住民自身のやることが、住民どうしの経験交流によって自発的に広がっていく。そしてその経験交流の広がり、単に一国内にとどまることなく、例えば、カンボジアとタイ、タイとインド、インドと南アフリカ、ジンバブエなどなど、貧困者自身の国際的グローバルなネットワーク構築に及びつつある(People's Process の発展)。

5) 私たちの貧困者/第3世界に対する関わり方の提案。

<http://pweb.sophia.ac.jp/~m-shimok/poverty/japaneseseed.pdf>

彼らの歩みを妨げている障壁を壊すのを手伝う。

彼らに歩みに可能性・光を見出し、育てる(手伝う: 少なくともそれをつぶさないようにする)。

<参考>:

(1985年フィリピンマニラのスラムで)

私の質問『何か日本人としての私がやれることはありませんか。』

スラムのリーダー『何もしないで下さい。それよりあなたたちの国の方が問題です。まず、あなたたちの国の中で、一人一人が大切にされるように社会を変えていってください。そうでないと、私たちの国は、その非人間的な部分のしわ寄せを受けて苦しんでいるのです。』

そして彼らから学んで、特に日本の社会を変えることも重要。

(南アフリカのスラムの住民パトリシアさんのコメント)

『私たちはまるで“開発”のボートに乗せられているようです。すべての政府機関、国際機関、専門家達そして市民団体の人々は、私たちをそのボートに積み込もうとしています。市民団体や他の人々が私たちにやらせようとするのが何か、彼らが何をやりたいのか、それに忍耐しなければならないのでしょうか。また私たちのやり方でそれを理解するには、時間が必要です。彼らは変革が簡単だと思っています。しかし私たちの中にはいつもそれに対して緊張があります。私たちにあって、これはプロジェクトではなく、私たちの生活そのものだからです。』